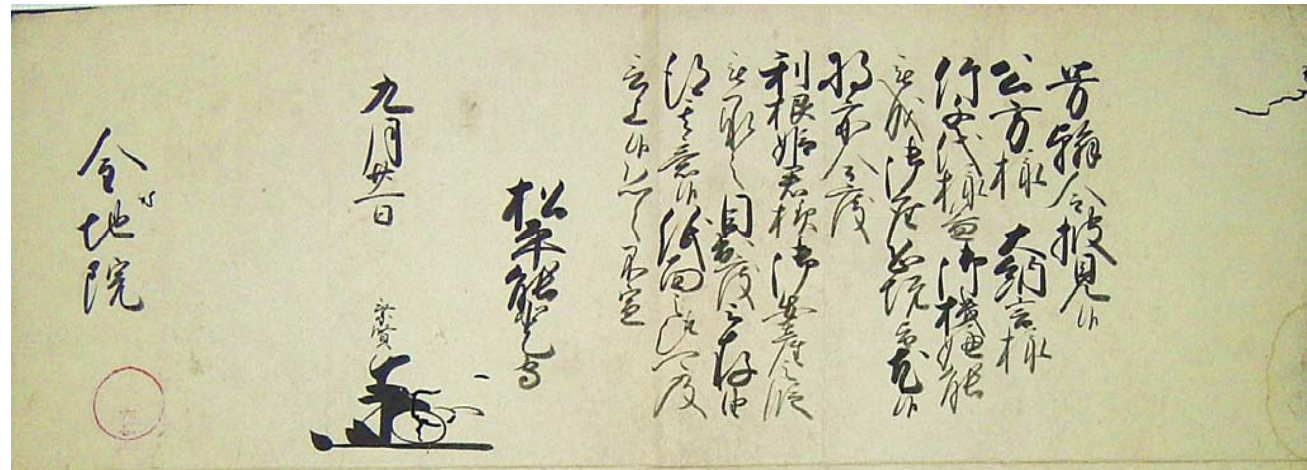


武家文書を  
読んでみましょう!

# 古文書講座

金地院宛 松平能登守乗堅書翰



折紙 原本 たつみ5×45 156.3cm

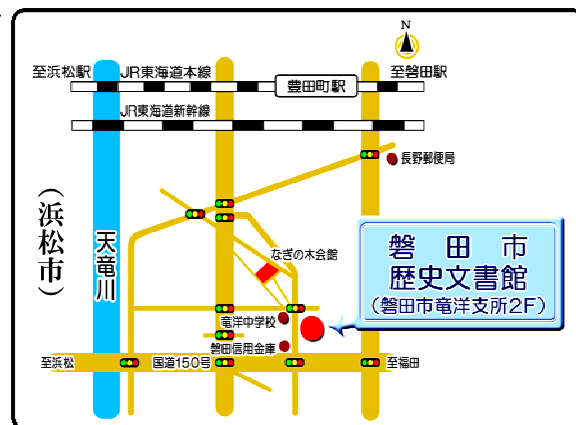
**古文書とは**  
甲から乙に対して甲の意思を表示して伝達するものを文書といい、その目的が完了し史料として意識されるものを古文書という。文字・符号・絵画などを紙や布・金属などに記されたものをさす。

## 史料ことば解説

- ① **芳翰**: 手紙の尊敬語。 ② **公方様**: 8代将軍吉宗。 ③ **大納言様**: 9代将軍家重。 ④ **竹千代様**: 10代将軍家治。 ⑤ **利根姫様**: 吉宗の養女(伊達宗村正室)。 ⑥ **松平能登守乗堅**(のりかた): (1693~1746)。美濃岩村藩3万石松平(大給)家第2代当主。享保8年若年寄りから、西の丸大納言家重に近侍、将軍吉宗によって老中に抜擢された。延享2年将軍家重の時、本丸老中になる。翌年病死。従4位下、能登守、侍従。 ⑦ **金地院**: 南禅寺金地院の僧「崇伝」が江戸の芝に建立した寺。崇伝は、江戸幕府の各種諸法度作成や、豊臣家滅亡のきっかけ「方広寺鐘銘事件」を家康に献策したとされる。また天海とは、家康の神号問題を争い敗北した。但し、この書簡の宛書金地院は、崇伝の後代に当たるものと思われる。

この書簡には年号がありません。内容から推察しますと、元文四年(1739)と考えられます。「利根姫様安産」と竹千代様、そして差出した松平乗堅がキーワードです。この史料は、松岡霊社に伝えられ、市に寄贈されたものです。金地院宛の書状が、なぜ松岡 萬 家に伝えられたのかは不明です。他にも、金地院宛に宛てた幕閣(老中)の書簡が多数保管されています。

発行 ; 磐田市教育委員会文化財課 磐田市歴史文書館  
住所 ; 〒438-0292 磐田市岡 729-1  
電話 ; 0538(66)9112 FAX ; 0538(66)9722  
Mail ; [chiikishi@city.iwata.lg.jp](mailto:chiikishi@city.iwata.lg.jp)  
休館日 ; 土日・祝日・年末年始  
開館時間 ; 8:30~17:00



磐田市歴史文書館

平成24年3月25日

# もんじょかん 文書館だより

第4号

磐田市教育委員会文化財課

## 平成23年度 歴史文書館の事業報告

昨年、開設3周年を迎えた磐田市歴史文書館は、磐田市域の歴史と文化を、遺された資料を通して未来に伝えるという大事な役割を担っています。ここでは、旧市町村史(誌)の編さん時に収集した、「各家資料」(含コピー)や明治以降の「役場文書」、また、当館開設以降の寄贈いただいた史料資料を整理し保存しています。市民のみなさんが、資料目録を閲覧したり、調査や研究に利用したりすることができます。以下は、今年度の事業の報告です。

### 1. 学習講演会の開催

7月10日(日)に、竜洋支所2階会議室において、本多隆成静大名誉教授による、「徳川氏の領国支配と伊奈忠次」の講演会を行い、第7回企画展の展示内容の理解が深められました。

第2回・3回は現在進められている福田町史編さんに関わる内容で、山本義彦静大名誉教授の「近代福田の地域社会とネットワーク」、そしてまた、足立洋一郎西部特別支援学校教諭の「報徳運動と福田」について講演をいただき、福田の近代史を学ぶことができました。



本多先生講演の様子

### 2. 企画展(2テーマ)を開催

第7回の企画展が、7月11日からおよそ2ヶ月間、「江戸幕府の成立期の直轄領支配と中泉代官」のテーマで開催しました。NHK大河ドラマ「江」"姫たちの戦国"の放映によって、同時代に対する関心が高まり、この企画展から「江姫」の生きた時代の磐田や遠江について理解していただくことができました。

第8回は、今年1月4日から2月29日まで、元新聞記者の故高橋福雄氏が遺された多くの資料を整理し、「磐南を思う」というテーマで



竜洋東小児童の見学風景



展示しました。「磐南タイムス」というミニコミ紙の発行を通じ、高橋福雄氏が持ち続けた磐南地域の歴史と文化、自然への熱い思いを、今回の展示から汲み取っていただけたことと思います。

3. 移動企画展の開催

企画展は、当館に収められている資料を、様々な角度からご紹介する一つ的手段です。今年度は、これらをより広く紹介するため、「天平のまち市民ギャラリー」に加え、「i ぼーと」(ららぼーと磐田内)でも展示しました。より多くのみなさんに、ご紹介することができたと思います。

4. 歴史ウォーク (史跡めぐり)

初めて「歴史ウォーク」と名付けて、夏の企画展に係る史跡を巡りました。案内と説明は観光ボランティアの皆さんにご協力いただき、残暑厳しい中26名の参加をいただきました。

江姫の娘<sup>まさこ</sup>和子ゆかりとされ、中泉御殿表門<sup>まさこ</sup>が移築されている西光寺、將軍秀忠と娘和子寄進とされる建物(本殿・鳥居・楼門など)を持つ府八幡宮、西願寺門を経て、代官職と神主を代々勤めた秋鹿家の庭園、泉蔵寺の秋鹿氏墓石群、御殿遺跡公園(家康の中泉御殿及び中泉代官陣屋跡)など6kmを3時間ほどかけて歩きました。



西光寺表門を見学

歴史文書館といえば、紙と文字資料という地味なイメージですが、フィールドスタディとして親しみがわくような取り組みに、少しはイメージチェンジしていただけでしょうか。

5. レファレンス実績

歴史文書館が行うレファレンスサービスは、図書館と同じく歴史文書館利用者が、学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、館職員が必要な資料あるいは情報そのものを検索・提供・回答することでこれを援助する業務です。(Wikipedia 参考)

内容一部ご紹介

Reference service

◆見付中泉境の只来坂周辺の絵図が見たい。  
◆出征した父の資料があると思われるのでそれを見たいのだが…。  
◆新貝代官「大草太郎」  
◆明治後期の報徳社に  
◆向笠三右衛門塚につ  
◆岩田と磐田の名前の由  
◆戦時期の農兵隊や食  
◆駒場の外人墓地の現状  
◆鉄舟・泥舟の掛軸があ  
◆豊田橋の建設時期は

◆津波はどこまで入って来たのか資料があるなら教えて欲しい。  
◆明応の地震について資料があるか？  
◆自宅周辺の液状化現象が  
◆古文書があるが読めない  
◆石碑の解説をして欲しい  
◆明治の見付英学校の、太田  
◆享保の「孝のみの虫」と  
◆授業でふるさと学習の教材  
◆松本村新福寺というの  
◆天竜川に沈んだ十郎島がどこ

平成23年度 レファレンス内容

- ◆陸奥白川藩の陣屋はどこにありましたか教えてください？
- ◆福田という地名について由来を知りたい。
- ◆落款は「十湖」と読めるが、句が読めないのをお願いしたい。
- ◆地元神社の創建年代の説明板がよくわからないので聞きたい。
- ◆昭和以前の古い公園を見たい。
- ◆町内会の祭りの資料が古くて読めないのを見て欲しい。
- ◆匂坂氏の系図や菩提寺について教えてください。
- ◆安政地震と東南海地震のもう少し詳しい説明を聞きたい。
- ◆明応地震や宝永地震の資料があるか？

★図書閲覧室のご利用はご自由に！

図書閲覧室では、目的の資料を検索し、職員にお申し付けいただければ、所蔵資料の閲覧ができます(但し、一部ご覧いただけない資料もあります)。図書館との違いは、閲覧室では自由に閲覧できますが、貸出しはできません。ご理解をお願いします。

☀️ 寄贈いただきました

[平成24年2月末現在]

1. 社寺資料(松岡霊社)  
松岡霊社は、幕臣松岡萬(よろず)を祀り、いまでも毎年例祭が行われている。その遺品と、松岡家に伝えられたと思われる中世から幕末までの資料など100点余。  
<古文書・古書籍・刀剣類・軸物(絵巻・書画・拓本)・古記録など>
2. 自治会・区有資料  
①上大原地区:近世初めから明治初期までの村方文書数百点。検地と年貢に関するもので、ほぼすべての年次にわたり残されている。  
②下太自治会:明治・大正・昭和初期にかけての村政・区民関係資料など270点余。
3. 各家資料  
近世から近代にかけての史料2件  
<田地証文・金子証文、年貢関係、養蚕関係など>80点余。
4. その他  
江戸期大工建築雛形(欠損あり)。

☀️ 大切な資料を未来に残すために！

古文書や絵図など、大切な資料の保存方法は、歴史文書館にご相談下さい！！

紙の資料は、適した環境の中で保存しましょう。

☀️ 平成24年度のお知らせ

☀️ 第9回企画展 7月2日～8月31日  
仮テーマ「生きながら神と崇め祀られた元直参旗本 <sup>あが</sup>**松岡萬**<sup>よろず</sup>」(松岡霊社資料から)  
～大池をめぐる争論を古文書から探る～  
◆幕臣ながら「尊皇攘夷」に惹かれ、浪士組(のち新撰組や新徴組)取扱役として鶴殿鳩翁の下で清川八郎・山岡鉄太郎・高橋精一などと將軍上洛の警護を果たす。戊辰戦争後、徳川慶喜に從い来静、藩庁の水利路程掛となる。ここに磐田との関りがうまれた! ◆  
☀️ 第10回企画展 H25年2月1日～3月29日 テーマ未定